

洞爺湖町・虻田海岸で清掃活動



北海道の海岸をきれいにしようと「NPO法人北海道海浜美化を進める会」の清掃活動が洞爺湖町で6月21日に行われた。

今年は5月17日・浜益海岸、5月30日・ゴミウォーク、6月7日・石狩浜と連続して清掃活動を行ってきた。

この日は、札幌から大型バスで3時間かけて、洞爺湖町虻田海岸に行き、11時から水崎呈会長の挨拶でスタート。Pコネクションの学生たち・A P T F 北海道の青年が中心にお年寄りも、若者も一つになって楽しくゴミ拾いを行った。

少ない人数でしたが、すっかりきれいになった海岸をながめ、改めて環境保全の大切さを考える場になった。

その後、それぞれ食事をし、有珠山火口の見学、洞爺湖温泉

で汗を流し、洞爺湖湖畔の散策を楽しんだ。

今後は7月の交流会、9月の羽幌エコツアーを予定している。



洞爺湖町海岸清掃に室蘭から参加して

結城 愛子

北海道の海浜美化に賛同して、今年も洞爺湖町海岸清掃に参加させて頂いた。

ごみを拾ってみて一番に眼に入ってきたのは、ペットボトル・ジュース缶。他には発砲スチロール・プラスチック・ロープや漁具。自然に還らないものがきれいな海を汚し、環境汚染になっている。海をきれいにするには、自然の生態系を維持し、地球環境を守っていくことでもある。

地球の温暖化の問題から、放送大学で最初に選択した科目「変化する地球環境」で地球の成り立ちから今後どうしていくと良いかを考え、ごみ問題をより考え実行するきっかけとなった。高度成長期から生活の便利さや使い捨ての生活が多くのごみを生み出した。ファーストフードからスローフードへ、人間の体を作る食物や食事のとり方、食育やエコを考えていくことにつながる。

私はウォーキングをライフワークにしている。室蘭から参加したのは長年続けている札幌ウォーク(2日間)に1日参加し、翌日の1日を清掃に参加。5月の武蔵野周辺のスリーデーマーチに参加したとき、宿泊した三鷹市で朝早く「町をきれいにし隊」というゼッケンを付けながら、高校生と高齢者4人がごみを拾っていた。ここにも町をきれいにしようと活動している人がいると感心した。秋に行われる北海道ツーデーマーチ(洞爺湖周辺)2日間は全国から参加する。



洞爺湖一周33kmのウォークにいつも参加している。歩いていて気づくことは、缶コーヒーの缶が多く捨てられていること。ごみをなくし、全国のウォーカーにきれいな自然豊かな洞爺湖を満喫してもらいたいと思っている。

室蘭は自然八景・地球岬・イルカや鯨に会える海に囲まれている。太平洋側に面したイタンキ浜の“鳴り砂”は浜の清掃活動で復活している。この自然は財産であり、自然を大切に、自然の恵みに感謝したい。

ごみを捨てる人がいるからごみがある。ごみを拾っている人はごみを捨てない。私たちにできることは何か？ 知恵とお金と時間、できることから始めるといいと思う。地球環境を考え、運用の資金を確保・提供し、クリーン行動に時間を使う。道中の交流と洞爺湖温泉の入浴は楽しみでもある。人と自然の恵みに感謝。 “ごみ拾い 笑み(恵み)と人の輪 広げよう”

